麦の穂

MUGI NO HO

第87号

2024年3月

認定特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1　　郵便振替口座　02200－8－46178

E-mail：muginokai@k5.dion.ne.jp　https://www.muginokai-koppe.com

目次

コッペ&エフブンノイチ＋開設します	飯嶋　茂	… 1p
ゆめ風ネット加賀救援活動報告（転載）	徳田　茂	… 2p
新聞記事より①		… 3p
自己紹介	奥山　栞	… 4p
イラスト	大松澤　玄聖	… 5p
新聞記事より②		… 6p
はじめまして「わ・は・わ」です	片岡　佑太郎	… 8p
ユウタさんのお勉強	落合　佑太	… 9p
その先	日下　由美	… 10p
泉区役所販売	氏家　大介	… 12p
基本	阿部　央希	… 12p

地域コミュニティーカフェ　「コッペ＆エフブンノイチ＋（プラス）」を開設します

飯嶋　茂

＊前回の会報でお知らせしましたが、4 月より地域コミュニティーカフェを、コッペのほぼ隣の隣に開設します。現在、一緒に活動してくれる障害メンバーを募集しています。具体的な活動内容の検討などまだまだ形になっていない部分も多いですが、興味のある方（もちろん、パン・クッキーの製造も）がいらしたらご連絡下さい。

＊一般社団法人仙台建設業協会様より、寄付金をいただきました。長年にわたりご寄付をいただいています。ありがとうございました。

＊災害がいつ来るかわからないと言っても元旦にというのはつらい。能登半島地震で被災された皆様にお見舞い申し上げます。今すぐに支援したい気があっても現実には難しい面があります。これから長い期間での支援が必要になると思います。その中で少しでもできることを協力したいと思います。

次ページに、災害時の障害者支援を専門に行っている「ゆめ風基金」の会報「ゆめごよみ　風だより」から金沢市・ひまわり教室代表徳田さんの報告を転載します。

NPO 法人ゆめ風基金 ゆめごよみ風だよりより転載

ゆめ風ネット加賀　救援活動報告

ひまわり教室（金沢市）　代表　徳田　茂

年明け早々、1日午後4時10分頃、想像もしていなかった大地震が発生しました。震源地は能登地方、マグニチュード7.6、最大震度は7。これはたいへんな事が起きたと思い、能登地方の知り合いに連絡を取ろうとしましたが、どの人ともつながりませんでした。

テレビから流れる地震の情報に釘付けになっていたところ、輪島市の朝市通りで火災発生のニュース。この火災は翌朝まで続き、翌日の映像では見るも無残な姿になっていました。

2日、職場であるひまわり教室へ行き、他の二人の職員と手分けして、昨年5月の地震の際に連絡を取り合った能登地方の障害者事業所へ電話をかけてみました。奥能登と言われる地域の事業所とは連絡がとれず、かろうじて比較的南の位置にある七尾市や羽咋市・中能登町にある事業所と連絡がとれました。

必要なものとして紙オムツや水・ポリタンクなどを言われたので、ひまわり教室に備蓄してあったものやホームセンターなどから購入したものを持って、3日ひまわり教室の二人が3カ所の事業所に届けてきました。

6日、ひまわり教室とつながりのある障害者福祉事業所の人たちにも集まってもらい、情報の共有と今後の確認を行いました。

7日、それぞれが手分けして要望のあった品物を購入。8日に私と弟とで、三つの事業所を訪れて品物を届けました。物品の購入には、ゆめ風基金から送っていただいた支援金を使わせていただきました。有難うございました。

1/3 羽咋市へ水を届ける

日を追うごとに被害の大きさが見えてきて、12日の時点で死者は200名を超えています。この大災害を前に自分たちは一体何ができるのだろう、と無力感に押しつぶされそうになっています。

穴水町にある知的障害者入所施設も激しい被害に遭い、入所者もスタッフも想像を絶するような日々を送っているようです。また、能登地方には小さな事業所がいくつもあるのですが、そこがどうなっているのか。そこを利用していた障害者と家族はどうなっているのか。今のところ、全く情報を得られていません。

今回の大震災、まだまだ全容が不明です。この厳しい状況をどう乗り越えていけるのか。能登から離れている私たちも当事者の一員として考え、能登の人たちと一緒に歩んでいきたいと思っています。

全国のみなさん、応援をお願いします。

河北

被災者把握へ官民連携

伝えたい
3.11の教訓

能登地震

被災地支援NPOスタッフ
大原真一郎さん(56)
=仙台市太白区=

おおはら・しんいちろう　仙台市出身。文教大教育学部卒。会社員を経て2011年8月に難民や災害被災地の支援に取り組むAAR　Japan(東京)に入職。仙台事務所(19年に閉鎖)所長などを務めた。

いまだに被害の全容が分からない能登半島地震は、津波や東京電力福島第1原発事故で広域が被害に遭った東日本大震災と共通点が多い。震災被災地で活動し、能登半島でも支援活動に当たる人々に、現地の課題や震災を踏まえた助言などを聞く。

◇

災害被災地を支援するNPO法人「AAR　Japan」(東京)のスタッフとして3～8日、石川県珠洲市と輪島市に入り、炊き出しなどを行った。初日の午後、珠洲市の住民から「大変なことになっている」と聞き、300人以上が避難していた若山小体育館に向かった。

市役所から約3キロと中心部に近い指定避難所にもかかわらず、外部の支援が全く入っていなかった。この日、豚丼を調理して提供した。少なくとも水や菓子パンは届いているかと思ったので驚いた。

若山小の環境は、想定を超える住民が押し寄せたこともあり劣悪だった。東日本大震災を機に生まれた段ボールベッドは、避難者の2割程度分しか備蓄されていなかった。多くが毛布を敷布団代わりにしていた。

震災では被災住宅の泥だしや避難所への物資運搬といった活動に従事した。能登半島の道路寸断などによる支援の遅れは、半島部や離島が孤立した三陸の被災地を思い出させた。

避難所の過酷さは震災時と変わっていない。国は空路などをもっと活用するべきだ。過去の教訓を生かせていない。

AARの活動で、石巻圏の在宅被災者を食料支援などでサポートし続けている。いまだに多くの在宅被災者が存在する背景にあるのは、行政による把握の遅れや、自宅が損壊した人に支給される国の被災者生活再建支援金の少なさだったと考えている。

能登でも車中泊の人や在宅被災者の把握は全く進んでいない。被災した人の声を丁寧に聞いていく必要がある。自治体の機能が大きく損なわれている現状も踏まえ、行政と民間が連携して、被災者の生活再建を進めるべきだ。

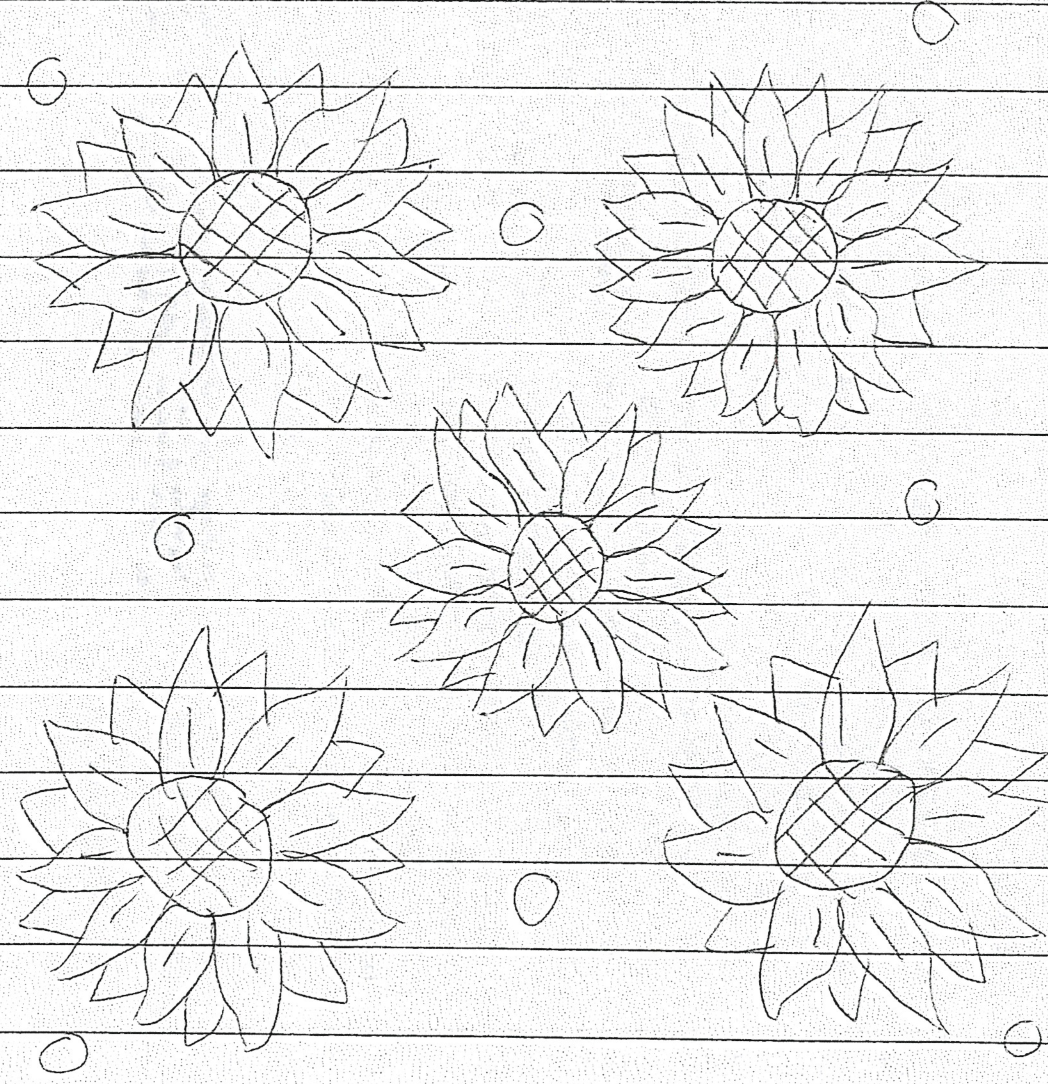
(聞き手は報道部・氏家清志)

=随時掲載=

大原さんは、麦の会の理事にもなっていただいています

去年の9月からコッペに入りました奥山（オクヤマ）栞（シオリ）です。

趣味は、手芸と服のファッションと料理です、好きな芸能は、
エマ・ワトソンと杉咲花と今田美桜と矢野聖人とHey!Say!JUMPの山田涼介です。
まだコッペで働き始めてから6ヶ月ですが、皆様と仲良く仕事をして
コッペで働けることを飯島さん、皆様に感謝して、これからもコッペで
働き続けていきたいと思っております。
これからもよろしくお願いします。



20×20

コッペの悩み多き若者、玄聖さんの直筆イラストです。

《イスラエルにロケット弾》。速報は、パレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織「ハマス」の軍事部門が、イスラエルに攻撃したことを伝えていた。真っ先に頭に浮かんだのが、オリーブオイルの生産者たちのことだった。生産拠点がイ

オリーブオイルのボトルをゆうこさん（左）に手渡す前野久美子さん＝2023年11月30日、仙台市

一日も早く平和な日々を 主婦

いつもオリーブオイルを買ってい
ほしいと願っています》

イスラエル北部のオリーブ畑で農作業をする生産者団体「ガリラヤのシンディアナ」のスタッフら＝2020年ごろ、同団体提供

「遠い国の他人」じゃない 非力

仙台出身の門脇篤監督が撮ったドキュメンタリー「パレスチナ・レポート」のURLも貼ってあった。パレスチナの人々が、イスラエルの検問所によって自由に移動ができなかったり、住み慣れた土地をイスラエル人に奪われたり――。でも、オイルの生産拠点では、双方の人々が一緒にオリーブの実を摘み、オイルをしぼり出していた。映像では、抑圧や差別にさらされながらも、共生の形を探る姿が描かれていた。

そして、あるパレスチナ人男性の言葉が心に刺さった。《パレスチナの人々がささいなことを苦にする日が来ることを夢見ている》。今は小さな悩みを持てる心の余裕すらない、という意味だ。小さなことに愚痴をこぼせるって、なんてぜいたくなんだろう。そう考えながら、前野さん宛てに感想をつづった。

《映像に映る青空、白いわたあめのような雲は仙台の空と同じじゃないですか。でも、パレスチナの人々

たいと思うようになった。旧友にパレスチナのオリーブオイルをプレゼントしたり、家族にパレスチナの情報を伝えたり。昨年12月17日には、仙台市内で開かれたパレスチナ関連のトークショーに、夫と足を運んだ。空爆にさらされる前のガザの様子について説明を聴き、元々は多くの商店が立ち並び、活気に満ちていたのだと実感した。

「もめている危険な地域」くらいのイメージだったパレスチナが、身近な存在になってきた。「いっぺんに全てを解決するのは難しくても、小さなつながりを大切にしたい」

オリーブオイルは、全国にある約130の食品店や飲食店などで買ったり味わったりできるほか、輸入会社「パレスチナ・オリーブ」に電子メール（paleoli@kbf.biglobe.ne.jp）で注文できる。平和への願いが込められたオリーブオイル。日本でも、一滴ずつ、その波紋は広がっている。

（小川尭洋）

2/6 朝日

共存の一滴 パレスチナ・オリーブ

仙台市の主婦ゆうこさん(60)のキッチンには、いつも、ボトル入りのオリーブオイルがある。

キノコのパスタや、ざるそば、ニンジンのポタージュ……。このオイルは、和洋中どんな料理でも合う。素材の味を引き立ててくれる「名脇役」だ。

ボトルのラベルには「パレスチナ・オリーブ」と書かれている。友人からのプレゼントをきっかけに、3年以上、毎日使っているが、一向にあきない。

昨年10月7日の土曜日も、このオイルを使ったランチを食べた。昼下がり、夫(65)と一緒にテレビを見て

ゆうこさんらの願い

スラエル北部にあると聞いていたからだ。

《交戦状態に突入》《イスラエルが報復》。スマートフォンを開くと、速報が次々と飛び込んできた。その夜、ベッドで何度も目が覚めた。数十人、数百人……。スマホを見る度、犠牲者の数は増えた。「生産者の皆さん、大丈夫かな」

彼らの顔は、商品紹介の冊子の写真で見ただけ。でも「遠い国の他人」には思えなかった。「オイルを使うくらいしか、自分にはできないのかな」

数日後の昼。そんな気持ちを察したかのように、一通の電子メールが届いた。《現在、パレスチナとイス

でも私にできること

イスラエル北部のガリラヤ地方でつくられ、日本国内の店頭に並ぶオリーブオイル＝2023年11月30日、仙台市

るカフェ「火星の庭」(仙台市)の店主、前野久美子さん(54)からだった。《あのオリーブオイルは平和の象徴のようなもので、パレスチナ人とユダヤ人が共同でつくり、平等に

の理不尽な境遇は知らないことばかりで。何も出来ない自分が悔しいです》

オリーブオイルの生産者は無事だったが、いつイスラエル側からの攻撃に巻き込まれるか分からない日々を送っていると聞いた。

■「パレスチナ・オリーブ」を扱う県内の主な店

火星の庭	仙台市青葉区	電話022・716・5335
コッペ	仙台市宮城野区	電話022・299・1279
ナトゥーラ	仙台市太白区	電話022・741・0366
菜の花村	登米市	電話0220・34・6991
みんなの放射線測定室「てとてと」	大河原町	電話0224・86・3135
尾張屋	松島町	電話022・354・2519
そばcafe風庵	南三陸町	電話0226・46・4636

同社サイトから。在庫切れなどで取り扱い中止になることも

初めまして「わ・は・わ」です！

初めまして。

宮城県仙台市若林区に事業所を構えています、就労継続支援Ｂ型事業所「わ・は・わ」です。ワワワと読みます事業所名の由来は「輪＝和」というところからきています。人と自然の輪を軸に、「障がいのあるなしにかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して」という法人理念のもと、地域に根差した事業を行っています。

地域の様々な企業・団体様から仕事を受託し、なんと、３６５日のうち３６０日間みんなで仕事を頑張っています！

仕事の内容は多岐に渡り、野菜果実の小分け、食肉加工、ダイレクトメールの作製、その他様々な軽作業と、毎日仕事が沢山あり慌ただしい日々を送っています。

今回お届けします「乾燥糸こんにゃく」は、常温保存で５００日間は保存可能で、湯で戻すと１．５倍に膨れて使用できる自慢の商品です。低カロリーですので、ダイエットにはもちろん、この寒い季節にはお鍋に入れてご賞味いただけると良いと思います。

みんなで心をこめて袋詰めをしました。継続利用はお電話いただければ承ります♪

今後ともどうぞ、宜しくお願いいたします。

社会福祉法人みんなの輪　片岡 佑太郎

1 1年生の たし算の ふくしゅう

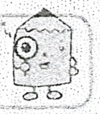
9月22日 時 分〜 時 分

名前 落合佐太 点

1 計算を しましょう。 1つ2〔40点〕

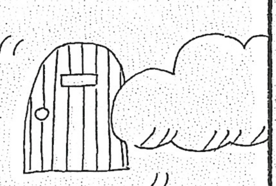
① 4+5=9	② 6+2=8
③ 3+0=3	④ 0+6=6
⑤ 8+2=10	⑥ 3+7=10
⑦ 9+4=13	⑧ 7+5=12
⑨ 6+8=14	⑩ 6+6=12
⑪ 5+9=14	⑫ 8+7=15
⑬ 40+20=60	⑭ 10+80=90
⑮ 50+30=80	⑯ 60+40=100
⑰ 20+7=27	⑱ 90+4=94
⑲ 43+6=49	⑳ 82+5=87

ねらい 2年生で ならう 計算には，1年生の たし算が 正しく できる力が ひつようです。すらすら できるように しましょう。



お父さんと自宅で勉強しているそうです。どうりで販売にいくとお釣りの計算をしたがるわけだ。

その先



2024・2・18　くさか みかん

☆白杖の利用者さんがペンネームを考えてくれました

平成五年十一月
母は八十九歳の生涯を
閉じました。

告別式の翌々日
知り合いの息子さんが
訪ねてきました。
動揺していました。

びっくりして駆けつけてくれたのです。
我が家を訪れたのは二十年ぶりでした。

母は、家族に看取られて病院で息を引き取りました。
二度目の脳梗塞で嚥下機能と言語機能に障害が起き、食べれず話せずの生活になりました。
点滴だけで半年を生きました。

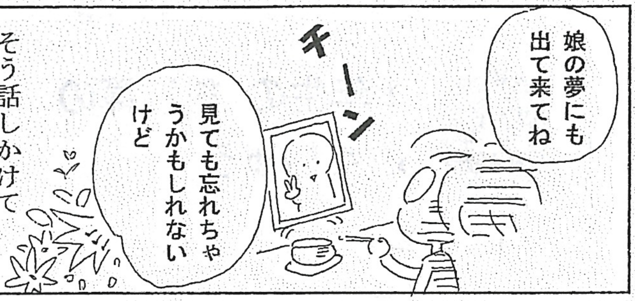
『娘さんが来るよ』の一言が母の一番の薬だと看護師さんから言われていました。
顔を見て声を掛けることしか出来ず、言葉にならない罪悪感が残りました。
言い残した事があったのかもしれないと思いました。

その夢とは・・

島のお祭りだと思いました。
浦戸諸島の寒風沢島の母の故郷のお祭りです。
笛の音や太鼓の音、白装束の若衆が海に落ちそうになりながら神輿を担いで島を練り歩くのです。
掛け声が聞こえてきました。
親戚もみな集まっています。
島中が熱気に包まれています。

ずいぶん昔、過疎化で神輿の担ぎ手がいなくなったと聞きました。
津波の後は防潮堤で海が見えない島になり、祖母の営んでいたお店は更地になりました。

島の思い出は、母の認知が進んでも色あせない記憶でした。



そう話しかけて床につきました。

その日夢をみました。虹の橋を渡った二匹の犬も一緒でした。

母は若くてきれいでした。豪華なお寿司を一人で美味しそうに食べていました。どこに住んでるの？と聞くと

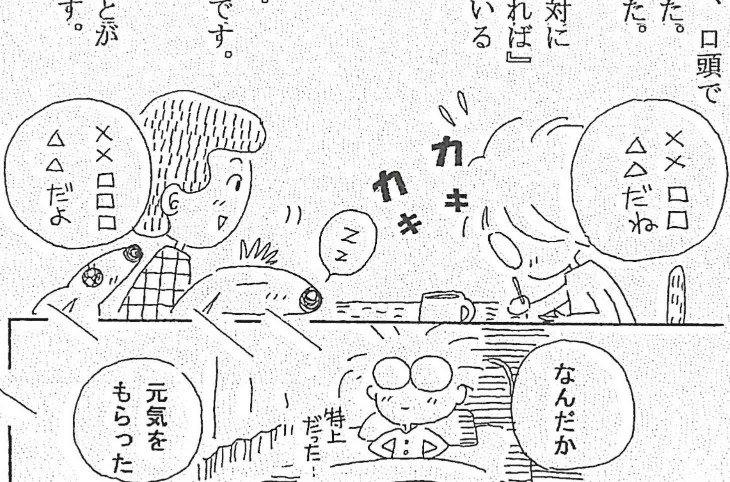
「いいよ」と母は言い、口頭で住所を教えてくれました。慌ててメモを取りました。

『夢から覚めても、絶対に忘れないようにしなければ』と必死にメモを取っている夢でした。

思うように字が書けずイライラしました。

住所は思い出せません。復唱までしたのに残念です。

でも、大阪のどこかで元気に暮らしていることがわかっただけで十分です。

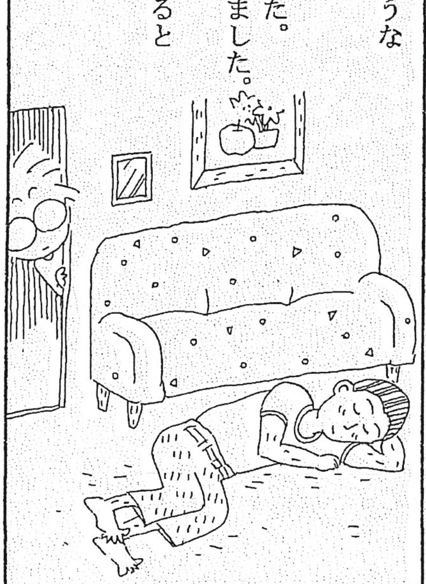


四十九日が過ぎました。あれから母が夢に出てくことはありません。

私は、父が亡くなった時も同じような夢をみています。

リビングに若い男性が寝ていました。びっくりしましたが父だとわかりました。父もびっくりしていました。ここはどこ？という顔で起き上がるとそそくさと出ていきました。

ちょっと不思議な体験です。



泉区役所の販売 1月16日(火)
ミキちゃんおかあさんとたかはし
しんじ大介の3人でいきました。
パンとクッキーおならべました。
いらっしゃいませやきたてパンは
いかがですかうりこみしました。
お客さんがたくさんきつくれてました
おひるしお食堂でチャーシューめん
大盛!をたべました。おいしかったです
パンもたくさんうれました。
ゆきがごろごろしていました。
民家 大介

基本　阿部史希

いつまでも　ずっと　大事なあります。

どうしても自分の命はしっかりと

良く考えてこれからも努力あります。

支えてくれのは家族がいるので

いつも応援してくれます。

自分も、しっかりともっと家族の
ために頑張って、そして

4月から25年目になります。自分も

ゆっくりと希望は優しくします。